

あなたの大好きなものは、なんですか？

今年も、素晴らしい感想文がたくさん届きました。

毎年、思っていることですが、みなさんの作文に優劣を付けることなど、わたしにはできません。本を読んで、環境問題について考えたことを、日々の生活の中で実践している人たち全員に「最優秀賞」を差し上げたいと思っています。

たまたまのことではありませんが、つい最近、インドを舞台にした作品を書きました。

わたしは二十代だったころ（今から四十年ほど前のことです）四ヶ月間、インドを旅していたことがあります。四十年ほど前に見たインドですから、今のインドとはさまざまな違いがあるでしょう。けれど、年月を経ても変わらない風景もあるのではないかと思っています。

インドのある町を歩いていたときのこと、屋台で売られている食べ物を買おうと、お店の人が二枚の葉っぱで作られた袋に入れてくれました。まわりの人たちを見てみると、食べ物を食べたあとは、葉っぱの袋を路上にぽいぽい投げ捨てています。

「あれ？ 路上にごみを捨ててしまっているのかな」と思いながら、わたしはごみ箱を探しましたが、見つかりません。

そこへ、一頭の白い牛が通りかかりました。

インドでは、牛は神聖な動物とされていて、もちろん人々は牛を殺して食べません。牛は町の中を自由に歩き回っています。その牛が、人々の捨てた葉っぱの袋をおいしそうにむしゃむしゃ食べていました。

牛が落とした糞は乾かして、燃料として使用されていました。

これは小さなひとつの例に過ぎませんが、わたしが見たインドではこのように、ごみはごみとして捨てられるのではなくて、社会の中で循環する有効な資源として存在しているのです。動物愛護とごみ問題が同時に無理なく、自然な形で解決されている、とても言えбайいのでしょうか。

三十年ほど前から、アメリカの森の中で暮らしているわたしは、地球温暖化を防ぐためのアクションとして、肉食をしない、電気自動車を使用する、というふたつの対策を実践しています。もちろんエコバッグの使用や資源の再利用は言うまでもないことですが。

以下、わたしの心に特に強く残った感想文に対する、短い「感想文」を書いてみます。

*金子航大さんの「タマゾン川を読んで」——イラストに惹かれて読んだ本から、自分の身近にある多摩川に目を向けて、生き物の生命に思いを馳せた金子さん。金子さんは「生き物が大好き」と書いています。この「大好き」が、環境を守るための重要なキーワードではないかと、わたしは思いました。

*増田暖大さんの「ゴミと未来 すごいゴミのはなし」——増田さんは、本を読むことがきっかけになって、リサイクルのマークをよく見てからごみを捨てるようになったそうです。そして実際にやってみると「ゴミを分別するのは楽しいな」と思ったそうです。この「楽しいな」という気持ちもとても重要ですね。楽しいことなら、長続きします。

*村田陽香さんの「大好きな鳥たちを守るために」——わたしも村田さんと同じように、鳥が大好きです。大好き、ということは、友だち、ということ。友だちが困っていたり、苦しんでいたりしたら、助けるのは当然のことですよ。村田さんは、友だちのために「野鳥を守るためのセミナー」に参加しました。すばらしい行動力です。

*堀翠伶さんの「人は過ちを繰り返す」——レイチェル・カーソンの『沈黙の春』を読んで、人間という生物に思いを馳せた堀さん。人間は、自然に対するリスククトよりも、お金に対する執着の方が強いのではないか。この言葉は、地球で暮らす人類全員が胸に刻むべき言葉ではないかと思いました。

*柘植葵衣さんの「なんとかしなければ」——『くろいはまべ』を読んで「なんとかしなければ」と思った柘植さん。その気持ちを電車の中や公園で行動に変えた柘植さん。大人も見習わなくてはなりませんね。電車の中でペットボトルが転がっているのに、誰も拾わないなんて、悲しい風景です。日本はいつから、そんな国になってしまったのでしょうか。

(2024年11月 小手鞠るい)